

松平家の世界

～徳川の世に繁栄した大族～

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 3月1日(土)～4月20日(日)
- 休館日 3月17日(月)～3月19日(水)

関ヶ原の戦い後の慶長5年(1600)に成立し、明治4年(1871)の廃藩置県まで約270年にわたり現在の福井市を中心とする地域を支配した福井藩。その藩主であった越前松平家は天下人・徳川家康の2男である結城秀康を藩祖とし、江戸幕府の将軍である徳川家の親戚筋にあたる親藩(家門)です。秀康の後継者である忠直の代に松平の名字(苗字、姓)を称したとされ、松平を名乗る大名のうちでも筆頭格の高い家格を誇りました。本展では松平家の子孫に伝わった資料などをもとに家康の子孫から有力外様大名まで様々な江戸時代の「松平を名乗った人々」についてご紹介します。

序章 松平から徳川へ

安城松平家の成立と発展

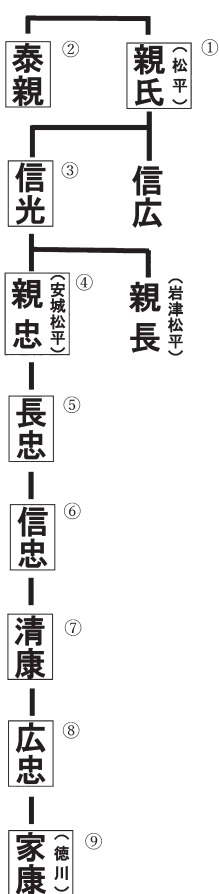
徳川家康は松平一族の惣領(軍事統率権などを持つリーダー)的立場にあった安城(安祥、愛知県安城市)松平家の出身です。松平氏は三河国松平郷(愛知県豊田市)発祥の一族であり、初代・親氏の家督継承後に勢力を拡大しました。3代・信光のころには室町幕府政所(幕府財産の管理・出納などを取り扱う重要機関)の執事(長官)である伊勢氏の家臣となり、有力武家へと発展しています。その後、安城城に信光の息子である親忠が入ることで安城松平家が成立します。当時、松平氏の惣領家は岩津(愛知県岡崎市)松平家であったとみられますが、のちに安城松平家が惣領的地位を獲得して徳川家へと発展したため、親忠が4代目とされます。

徳川への改姓

永禄10年(1567)、松平氏9代・家康は朝廷から従五位下三河守に叙任され、松平から徳川へと名字を改めます。家康は前年に三河国(織田領となっていた一部地域を除く)の平定を成し遂げており、支配者として他の松平一族とは別格の家であることを示すために改姓が必要であったとみられます。また、松平のままでは朝廷から官位を得ることが難しいという事情もあったようです。

松平(徳川)氏の自己認識

徳川の名は清和源氏の流れをくむ上野新田氏の分家である得川氏に由来し、家康の祖父にあたる清康は「世良田次郎三郎清康」と、得川氏の分家である世良田氏を自称しています。この「松平(徳川)氏は清和源氏(上野新田氏)の末裔」という自己認識は、のちに江戸幕府の公式見解となります。



松平氏略系図

第1章 徳川以外は松平

慶長8年(1603)、徳川家康は朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸幕府が成立します。江戸時代に将軍と同じ徳川を名乗ることができたのは御三家(尾張徳川家・紀伊徳川家・水戸徳川家)や御三卿(田安德川家・一橋徳川家・清水徳川家)の当主など一部のの人々に限定されており、それ以外の徳川將軍の親族や徳川將軍の親族を祖とする家(越前松平家、会津松平家、久松松平家など)、御三家の一族・分家(高須松平家など)は徳川ではなく松平を名乗りました。



松平慶永(春嶽)肖像画
(越葵文庫 当館保管)



松平主馬（長沢鷗客）油彩肖像画（当館蔵）

第2章 松平を名乗った徳川家臣たち

松平氏には家康の代に至るまでに分かれた多くの分家があり、徳川家に従った分家の多くが江戸時代には大名や旗本、あるいは大名家の重臣として栄えました。

例えば、江戸時代に現在の福井市や越前町などに飛び地を持っていた西尾藩（愛知県西尾市）の藩主は松平氏の有力な分家である大給松平家であり、また幕末期に福井藩の重臣として活躍した松平主馬（長沢鷗客）も松平氏の分家である長沢松平家の一族です。

加えて、関ヶ原の戦いの前から徳川家に仕えていた家臣などには徳川家当主（将軍）や江戸幕府から松平の名字を与えられるものもありました。

例えば、福井藩の重臣であった芦田家は、もとは依田家といい、かつて

徳川家康から松平の名字を名乗ることを許されていました。



福井城旧景（芦田信濃邸）（当館蔵）

第3章 外様大名も松平を名乗る

徳川家康は後継者である秀忠の将軍任官を契機として有力な外様大名（関ヶ原の戦いの後に徳川家に従った大名）に松平の名字を授与し始めます。その後、家康と秀忠の二代にわたり娘婿、娘の子、養女の婿、養女の子といった関係性を有する有力外様大名に松平の名字を与えています。また、松平を称した大名の次代にも松平の名字が与えられる傾向があり、これらの大名家では当主が代々松平の名字を与えられる慣例が形成されました。例えば、幕末・明治維新时期に存在感を示した島津斉彬（薩摩藩）、山内豊信（土佐藩）、鍋島直正（佐賀藩）といった外様大名家の当主はいずれも松平の名字を称し、あるいは松平の名字で呼ばれています。

このように、家康と秀忠の治世を経た日本では、領知高の大きな有力大名の多くが松平の名字を称するようになり、さながら「松平家の世界」の様相を呈するようになったのです。

【主要参考文献】

平野明夫『三河 松平一族』新人物往来社、2002年

『福井市史 通史編2 近世』福井市、2008年

福田千鶴『日本史リブレット人049 徳川綱吉 犬を愛護した江戸幕府五代将軍』山川出版社、2010年

藤井譲治『徳川家康』吉川弘文館、2020年

柴 裕之『青年家康 松平元康の実像』KADOKAWA、2022年

黒田基樹『家康の天下支配戦略 羽柴から松平へ』KADOKAWA、2023年

黒田基樹『戦国大名の新研究3 徳川家康とその時代』戎光祥出版、2023年

野口朋隆『家からみる江戸大名 徳川将軍家 総論編』吉川弘文館、2023年

村岡幹生『戦国期三河松平氏の研究』岩田書院、2023年



山内豊信肖像写真
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）

次回の展示

企画展示室 特別展「越前北庄の城と城下」

令和7年5月17日（土）～7月6日（日）

松平家史料展示室 企画展「宮中からのおくりもの」

令和7年4月25日（金）～6月15日（日）

展示解説シート No.175

令和7年3月1日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 中西 健太

印刷 鶴宮本印刷